

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：教授

氏名：吉富 望

<p>研究課題名</p>	<p>① 防災に関わる情報伝達 ② 安全保障に関わるロジスティクス</p>
<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>① 防災に関わる情報伝達 自然災害に関する防災において、適時・適切な情報伝達は人命を守る上で重要な要素である。しかしながら日本では、毎年のように自然災害で多くの犠牲者あるいは逃げ遅れによる孤立が発生しており、その主要な背景の一つとして、災害や避難に関する情報伝達の不備を指摘できる。そこで、令和4年度には、災害・避難情報を各住民に対して今まで以上に適時・適切に伝達するためのソフト開発に関して、理工学部と協力して研究する。また、自治体の特性に当該ソフトを適合させるため、自治体と協力して研究を進める。</p> <p>② 安全保障に関わるロジスティクス インド太平洋地域の安全保障情勢は緊迫の度を増しており、地域の平和と安定を維持するためには各国の努力が求められている。この際、日本として適切な抑止力を整備していくことは、自国防衛のみならず、地域の安定のためにも不可欠である。他方、日本政府はこれまで防衛力整備を進めてきたが、その焦点は正面装備の整備に注がれており、後方分野の整備には不十分な点が多いと指摘されている。そこで令和4年度には、後方分野の中でもロジスティクスに焦点を当て、輸送力の強化に関する研究及び防衛省・自衛隊と民間との協力に関する研究を行う。これらの研究では、防衛省・自衛隊及び関連企業と協力する。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>① 防災に関わる情報伝達 令和3年4月以降、危機管理学部、理工学部、文理学部、芸術学部、工学部などの有志教員と共に水害時の情報伝達・活用に関する研究を進めている。この研究は、水害に焦点を当てた災害・避難情報通知システムを構築し、住民の適切な避難行動及び地方公共団体の適切な避難支援業務をサポートすることを目的としている。令和4年度には防災や官民連携に関する書籍を購入し、当該システムを地方公共団体の避難支援業務において効果的に活用する方法などを研究できた。今後は、防災に関わる情報伝達のみならず、情報収集・分析についても研究していく。</p> <p>② 安全保障に関わるロジスティクス 防衛省・自衛隊および米軍のロジスティクスに関する動向を中心に研究した。その成果は、「課題山積の自衛隊 このままでは2回目の敗戦を迎える」Wedge ONLINE (2022年4月1日)、「ウクライナ戦争から見る沖縄 住民を守るためには」Wedge ONLINE (2022年5月7日)、「日本に必要な新たな国家総力戦の創造を」Wedge ONLINE (2022年10月7日)、「米海兵隊の新戦闘部隊は何をし、沖縄とどう向き合うか」Wedge ONLINE (2023年1月23日)などの論考で発表した。また、「武力攻撃下の離島における民間人の避難が抱える課題—八重山地域に焦点を当てて—」と題する学術論文を『危機管理学研究』第7号 (2023年3月) にて発表した。今後は、引き続き防衛省・自衛隊および米軍が行っているロジスティクス改善の動きをフォローし、研究を進めていく。</p>